

第 72 回日本 PTA 全国研究大会、
第 56 回関東ブロック研究大会川崎大会
研修報告

富士市 PTA 連絡協議会 会長 服部英之

本年度は、隣県の神奈川県川崎市にて開催されました。関東開催ということで、二日目には、関東ブロック研究大会も同時開催され、静岡県は関東ブロックに所属するため、両大会に参加してきました。

近場の開催ということで、富士市 P 連全体にもお声掛けさせていただき、執行部以外にも 2 名の会長さんが興味を持っていただき参加して頂けました。すごくうれしく思います。

開会に先立ち、能登半島地震被災者への黙とうから始まり、国家、PTA の歌で参加者の気持ちを 1 つにし、大会スローガン『ウェルビーイングの実現を、川崎の地から～活かそう「縁」の力～』と掲げ、ウェルビーイングの大切さを、「縁」が織りなす繋がりを通じて社会に伝え広げることと考え、例年とは違い 1 会場運営で開催されました。

講演も多行われ、その中でも事前に配っていた 7 色別のリストバントで、色別の方とグループを組み意見交換をする。という取り組みで他地区の方とグループを組み、その都度講師から出たお題に対しディスカッションをしていきました。ディスカッションをこたでコミュニケーションができ、普段の話やら自分の趣味の話、消防団の話など、楽しい交流が出来ました。

多くの公演の中で楽しみにしていた、「NHK ドキュメント 72 時間 視聴者が選ぶ 2022 年度年間ベスト 1 “どろんこパーク”雨を走る子どもたち」でも放送していましたし、富士市の「夢みるプロジェクト」さんでも放映して頂いていました「ゆめパのじかん」の川崎市子ども夢パーク前所長でもある西野博之氏のおはなしで、その公演の中で、「大人なら会社を辞めることができる。しかし、子どもは学校辞めるという選択肢がない」だから「学校に行けないだけで自らのちを絶ってしまう」の言葉には衝撃を受けました。

私たち大人が考え方を考えなければいけない・そう思いました。

また、吉田田タカシ氏（「トーキョーコーヒー」代表）のセッション「大人が変われば子供も変わる！ウェルビーイングの社会実装」では、大人が楽しく学びあう場所の提供、教育システムを進化させるムーブメントとして主導。つくるを通して生きるを学ぶそんな場所を全国に展開していて、「正解信仰」を捨てるのが教育の本質であり、子どもたちが自分の力で成長するためには大人の支援が不可欠であることなど、子どもの発想力の凄さ素晴らしさなど多くのお話を聞きました。

最後に「ウェルビーイング」とは「良い（Well）」と「状態（Being）」からできた言葉で、自分の生きる道だけではなく、家族や友人、自分の住む街や国が、どのようにすれば「良い状態」でいられるのかについて考えることとあり、ウェルビーイングの大切さを私たち1人1人が理解し広げていくことが大切と思いました。

今年の全国研究大会でも多くのことに刺激を受けました、「ウェルビーイング」をもっと学び広げていきたいです。ありがとうございました。